

# 留都の生大文 故郷と留都

17

## 『故郷を離れて』

比較文化学科3年 古関理恵



勉強に励むこともできません。私はあと残り二年都留で暮らすわけですが、ここにいる間に学生だけではなく、もっと市民の方々の交流もあればと思います。こっちは来て学んだことですが、何事も自分から動き出さなければ始まらないと知りました。都留市に望むことは、もっと公園などの住民が利用できる公共施設をつくってほしいということです。せっかく都留に住んでいるんだから、この町について関心を持って、市民憲章にある「文化都市にふさわしい豊かなまち」を目指していけたらなと思います。私は自分の故郷の高砂市も、今住んでいる都留市も好きです。

約二年前、山梨に来て山中湖から初めて富士山を見た時の感動は、今でも忘れられません。それまでは、あんなに迫力があって大きいものだとは思いませんでした。頂上が白い雪で覆われた富士山は、本当にきれいでした。あれから時は過ぎ、都留で三度目の春を迎えようとしています。私の住む大学周辺は、山に囲まれているため富士山を見ることはできませんが、たまに富士急行線に乗ると、車窓からだんだんと見えてきます。最初、都留に来た時は無人駅の乗り方も分からず、すぐ田舎だなと思いました。また、交通の便が悪く、歩道も狭くて歩

きづらいし、国道はトラックなど大きい車がよく走ってて怖かったです。暗い夜道はチカンにも会いやすく、今はだいぶ慣れましたが、やはり都留という町は地形的に閉鎖されると感じました。私の故郷は、兵庫県の高砂市です。瀬戸内海に面していて静かな町です。都留と違い山はあまりなく、海が近いです。そして安くて新鮮な魚が食べられます。兵庫県といえば、約五年前の阪神淡路大震災を思い出す方が多いでしょう。私はこっちにきて、数十回ほど震災の時の事を聞かれました。高砂市は震度五ぐらいでしたが、全壊した家屋などはあまり

なく、死者・負傷者もほかの地域に比べ少なくすみました。でも神戸に住む被災者の人々の話を聞くと、建物は復興してもまだまだ元には戻ってないといえます。一度すべてを失って、街は戻っても自分たちの生活はそう簡単には戻らないからです。中でも、一人暮らしの高齢者の方や社会的に弱い立場にいる人々は、不況の中で更に辛い状況にいると思います。ここの都留でも小さな地震があり、結構頻繁に揺れを感じます。私はその度にあの時のことを思い出して怖いです。震災の時は全国から応援物資や励ましの声が届けられ、本当に勇気づけられた人々がたくさんいました。あれから早五年が過ぎましたが、私はこっちで震災のことを聞かれる度、まだ覚えてくれているんだとありがたく思います。あの時のことをいつまでも忘れたくないし、今も被害を負った人たちのことを忘れないで

ほしいです。さて、初めはあまり良い印象を持ってなかった都留ですが、住めば都というか、今は好きになりました。市民の方々の交流があったからです。交流といっても大したものではなく、バイト先やお店の方々と大家さんなどですが、私の出会った方は皆とても温かくて、いい方ばかりでした。たまに東京に行くと、忙しそうなのと流れや騒音の中で疲れてしまします。そして都留に戻ると、自分の住む町に帰ったと思いき、静かです。都留は大きな工場もなく、空気がきれいで星もよく見えます。普段あまり気にしませんが、水もとても美味しいです。大学を卒業して都留を離れると都会に住むかもしれないので、学生のうちは静かな町で暮らすのもいいなと思います。人に流されることなく、自分を見つめ直すことができるからです。誘惑もないので、



瀬戸内海へ流れる加古川の風景